

1 次案内

くらしと協同の研究所

2023 年総会記念シンポジウムのご案内

- ◆日 程 7月1日(土) 13:00～17:20 シンポジウム リモート参加と会場参加の開催
7月2日(日) 9:30～12:30 分科会 リモート開催
- ◆会 場 京都テルサ

◆申込み締切: 2 次案内でお知らせします。

現代社会における食の価値を考える

－生活協同組合だからこそできる価値の伝え方、活かし方とは－

(開催趣旨)

暮らしをより良くし、持続可能な社会を創ることは、協同組合にとって重要な目的ですが、とりわけ、さまざまな場で食を取り扱う生活協同組合(生協)においては、食が有する多面的な価値を通じて目的を実現することが必要になります。ここで食の価値とは、栄養を摂り健康を維持することだけではなく、生産や流通に携わる人たちにも思いを馳せながら、人と人とが繋がり、資源や環境・文化を保全し、食への理解を深めることによって人が成長する、といった多くの意味が考えられます。

このように私たちにとって身近な存在であり重要な役割を果たすはずの食ですが、それをめぐる状況は決して安心できるものではなく、さまざまな課題に直面しています。地球規模での人口増加に伴う不足が叫ばれ、気象変動や自然災害の発生により不安定な生産が続いています。また、新型コロナ禍による生産から流通、販売や消費に至るまでのフードシステムの混乱や、ウクライナとロシアとの紛争や円安等の影響による生産資材や食料品の価格高騰が、私たちの暮らしや社会を脅かしています。

本シンポジウムでは、こうした現代における状況のもとで、私たちは食の価値をどのように捉えればよいのか。そして、生協として、それをどう伝え、暮らしや地域社会のために活かしていけばよいのか。食と農の経済学を専門とする研究者の基調講演と、民間事業体および自治体による食を基盤とした実践報告をもとに、皆さんとともに考えます。

本研究所運営委員長 北川 太一 (摂南大学農学部)

主催：くらしと協同の研究所

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町 258 コープ御所南ビル 4F

TEL:075-256-3335 FAX:075-211-5037

E-mail: kki@ma1.seikyoku.ne.jp (1 は数字)

7月1日(土) 13:00~17:20 シンポジウム：京都テルサ

○ 開会あいさつ 13:00~13:10

第1部 基調講演 13:10~14:10

「資本主義的食料システムの成り立ちとカラクリ」

平賀緑氏 (京都橘大学)

第2部 実践報告 14:20~15:40

報告1「生産者と消費者を繋ぎ食の価値を伝える『やさいパス』の取り組み」

加藤百合子氏 ((株)エムスクエア・ラボ/(株)やさいパス 代表取締役社長)

報告2「食の価値を活かした市民協働による総合的なまちづくり」

中田典子氏 (福井県小浜市食のまちづくり課課長 御食国若狭おばま食文化館館長)

第3部 ディスカッション 15:50~17:10

コーディネーター 片上敏喜氏 (日本大学：本研究所研究員)

コーディネーター まとめ 17:10~17:20

※第31回総会 17:40~18:10

7月2日(日) 9:30~12:30 分科会：京都テルサ

第1分科会

「地域医療福祉と協同組合」

－地域医療構想・地域包括ケアシステムと医療福祉事業の可能性－

第2分科会

「若い組合員にひびく(コープ)商品とは」

－生協が若い世代に魅力的に感じてもらうためには、どんな商品が求められているのか－